

＜ジャパンエックスボウル・第29回日本社会人選手権・パナソニック24ー21＞

◇14日◇東京ドーム



5年ぶり14度目出場のパナソニックインパルスが24ー21で、同3年連続7度目の富士通フロンティアーズに試合時間残り1分あまりで逆転勝ちし、7年ぶり7度目の優勝を飾った。MVPはパナソニックQB高田鉄男（34）が獲得した。

パナソニックは来年1月3日の日本選手権「ライスボウル」（東京ドーム）で、学生王者の立命館大学パンサーズと対戦する。

【第1クォーター】

ハーフタイムショー特別ゲストのMay J. がコイントス。パナソニックのレシーブで試合開始となった。DB辻がキックオフリターン、パナソニックは自陣25ヤードからの攻撃となった。最初はRB横田の連続ラン。ファーストダウンを獲得した。パナソニックは、さらに横田が走る。RB須賀も走るがファーストダウンを獲得には至らない。



富士通は自陣10ヤードからの攻撃。QBキャメロンがRB後藤へ29ヤードのパスでファーストダウンを獲得した。さらにWR強へのパスなどで敵陣25ヤードまで進むと、WR中村へのパス、WR強へのパスで8ヤードまで入り込む。すると、ここでパナソニックの反則でゴールまでは4ヤード。スペシャルプレーは不発に終わり、4ヤードロスしたが、7分19秒、QBキャメロンからTE水野へのパスで8ヤードの先



制TDを奪った。K西村のTFPキックも決まって、富士通が7ー0とした。

対するパナソニックは自陣10ヤードからの攻撃。RB横田のランで4ヤード、QB高田からWR本多へパスで1ヤード進む。そして、WR頓花へのパスでは自陣43ヤードまで進み、ファーストダウンを獲得した。しかし、この後、QB高田が富士通DL木村にサックされてしまう。

富士通は自陣30ヤードからの攻撃。WR中村へのパスで8ヤード進むと、続くRB神山のランでファーストダウンを獲得した。さらに神山のランで7ヤードをゲイン。そして、WR宜本潤へのパスでファーストダウンを更新した。次のWR中村へのロングパスは惜しくも不成功となり、QBキャメロンはフェイクパントを見せる。しかし、不成功に終わった。続くパナソニックの攻撃は自陣37ヤードから。しかし、なかなか前進できない。ここで第1Qが終了となった。

【第2クォーター】

富士通の攻撃に代わり、自陣19ヤードからWR宜本潤へのパス、RB神山のランで前進し、ファーストダウンを獲得する。さらにQBキャメロンがWR中村へのパスでファーストダウンを更新。スクリーンパスも決まり、敵陣に入り込んだが、次のロングパスは決まらず、攻守交代となった。

パナソニックは自陣14ヤードからの攻撃。QB大原が高田に代わって登場した。すると、RB横田のランで27ヤードまで進み、ファーストダウンを獲得する。そして、RB須賀へのプレーアクションパスも決まり、自陣45ヤードまで進む。その後、敵陣48ヤードまで入るが、ファーストダウン更新には至らない。



富士通は自陣17ヤードからの攻撃。WR中村へのパスなどで39ヤードまで進み、ファーストダウンを獲得する。しかし、続いて右サイドを走ったWR中村へのロングパスは決まらない。

パナソニックの自陣20ヤードからの攻撃に代わり、RB横田のランで46ヤードのロングゲイン、敵陣34ヤードまで前進した。そして、RB須賀のランでさらに進むと、敵陣18ヤードでファーストダウンを獲得する。ここでQB高田は3連続パス。1回目不成功、2回目は4ヤードに止まったが、3回目にWR頓花が敵陣9ヤードまで進む。しかし、ファーストダウンを獲得には至らない。すると、パナソニックは4thダウンギャブル。RB横田が走るが、ノーゲイン。ギャブルは不成功に終わった。

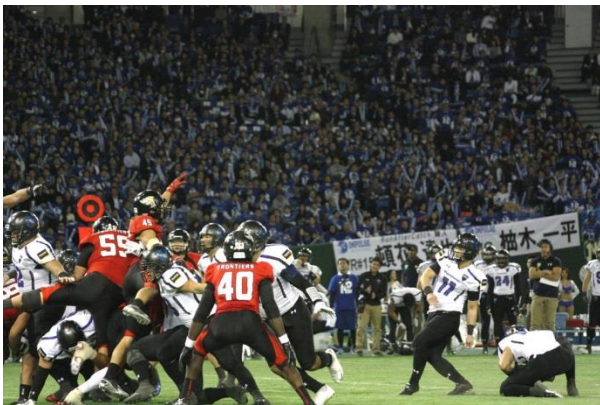
富士通の攻撃に代わり、Q Bキャメロンはパスを選択した。ところが、それをパナソニックD Bポーターがキャッチし、32ヤードのパスインターセプトリターンTD。14分37秒、K佐伯栄のTFPキックも決まり、前半は同点で折り返した。



◆パナソニックD Bポーター 一時期はケガをしていたが、戻ってチームプレーができて良かった。富士通はオフェンスがすごくいいチームなので、全員でキャメロンを止めようと思っていた。

【第3クォーター】

富士通はWR中村が自陣17ヤードまでリターン。ここからQ BキャメロンからWR宜本潤への連続パスでファーストダウンを獲得した。しかし、キャメロンがD Lジョーンズにサックされてしまう。



パナソニックの攻撃は、富士通キッキングチームの反則もあって、敵陣47ヤードから。するとWR遠藤が敵陣27ヤードまで走り込んだ。続くRB須賀へのパスは不成功となるが、次は須賀のランで18ヤードまで進んだ。しかし、TDには至らず、パナソニックはFGトライ。ここでK佐伯栄が35ヤードをきっちり決め、10—7と逆転に成功した。

追う立場になった富士通は自陣24ヤードからの攻撃。RB金のランなどでファーストダウンを獲得した。さらにQ BキャメロンがTE水野へロングパスを決め、敵陣32ヤードまで進んだ。さらにRB後藤のランで11ヤードと5ヤードをゲイン。16ヤードまで入り込む。水野へのTDパスは不成功に終わるも、続くWR宜本潤への16ヤードTDパスが決まった。9分7秒、K西村のTFPキックも決まり、富士通が14—10と再びリードを奪った。

パナソニックの攻撃は自陣34ヤードから。RB横田が走って前進する。しかし、続くプレーではファーストダウンを獲得には至らない。富士通の自陣30ヤードからの攻撃に代わり、RB神山が5ヤードをゲインする。しかし、次のプレーではパナソニックD L梶原にロスタックルを食らってしまう。

パナソニックの攻撃は自陣30ヤードから。Q B大原に代わり、RB須賀が5ヤード走る。さらに3ヤード進むと、須賀が自陣45ヤードまで走ってファーストダウンを獲得した。しかし、その後は攻撃は富士通のディフェンスが圧力をかける。ここで第3Qが終了した。

【第4クォーター】

富士通の攻撃に代わり、自陣10ヤードからQBキャメロンがWR中村へ59ヤードのロングパスを決め、敵陣31ヤードまで進む。さらに5ヤード前進したところで、パナソニックDB中村がパスインターフェアの反則。これでまた15ヤード前進した。キャメロンはパナソニックDLモトウにQBサックを浴びて8ヤードロスするが、すぐに11ヤードを自身で走って、ファーストダウンを獲得した。ところが、直後のパスをパナソニックLB相馬からインターセプトを食らってしまう。



4点差追うパナソニックは自陣20ヤードからの攻撃に。RB須賀のランでファーストダウンを獲得するが、続く攻撃では、QB高田が富士通LBニクソンにサックされてしまう。

富士通は自陣37ヤードからの攻撃。QBキャメロンのスクランブルラン、キープランでファーストダウンを獲得した。するとWR中村へ32ヤードのロングパスも決まり、一気に敵陣11ヤードまで攻め込んだ。ここでキャメロンはTE水野へパス。ゴール前2ヤードに進むと、WR秋山へのTDパスが決まった。9分56秒、K西村のTFPキックも決まって、富士通は21―10と点差を広げた。

残り7分4秒で、パナソニックは自陣48ヤードからの攻撃。QB高田の最初のパスは不成功となり、さらに富士通木村にQBサックを浴びてしまう。4thダウングャンブルで須賀が走るが、ファーストダウンを獲得には至らない。

富士通は試合時間残り5分21秒からの攻撃。ところが、QBキャメロンの最初パスがパナソニックLB松永にインターセプトされてしまう。パナソニックは攻撃権を得ると、いきなりQB高田からWR頓花への42ヤードTDパスが決まった。これで16―21。パナソニックは2点コンバージョンを狙うが、これは不成功に終わった。

◆パナソニックLB松永 QBがロールしたのが見えたので、寄っていったらボールが入ってきた。これ以上ないインターセプトだった。相手のパスカバーでLBが少しでもDBの助けになろうと意識した。DBと連携できた。自分では初めての（社会人）日本一で最高としか言えない。

◆パナソニック・荒木監督 あそこで、松永がインターセプトしてくれたのは大きかった。

富士通の攻撃は自陣12ヤードから。RB後藤のランは4ヤードロス、続くパスも不成功。さらなるパスは成功も4ヤードしかゲインできず、攻守交代となった。



ここでパナソニックはD Bポリーがパントリターンし、敵陣33ヤードまで進む。残り時間は3分28秒。ここからパナソニックは、Q B高田がWR小山へパスを決め、敵陣17ヤードまで進む。残り時間2分12秒で高田はスクランブルランを見せるが、ノーゲイン。続くランプレーも富士通ディフェンスが圧力をかけ、2ヤードしか進めない。しかし、ここで高田から小山へ起死回生の15ヤードTDパスが決まる。残り1分11秒、高田は自身で2点コンバージョンのランも決め、パナソニックが24ー21と逆転した。

◆パナソニックWR小山 日頃から（高田）鉄男さんに「（スペースが）空いていたら俺を見て」と言われていた。あの時は、普段のコースを走らずに鉄男さんを見ていたら、ボールが来た。相手を抜いたらフリーだった。

残り1分6秒で富士通の攻撃は自陣24ヤードから。Q Bキャメロンのパスは3連続不成功となり、残りは44秒となる。4thダウンでキャメロンはスクランブルランを見せるが、ボールをファンブル。これをパナソニックLB相馬が押さえた。

残り36秒でパナソニックはビクトリーフォーメーションに。時計を進め、パナソニックの逆転勝利が決まった。



◆パナソニック・荒木監督 最後まで誰もあきらめなかった。ぜんぜん勝てると思っていた。選手が人間として成長してくれた。ライスボウルで社会人が学生に負けているようでは、アメリカンフットボールにこれ以上の発展はない。しっかり準備して最高の試合をしたい。

◆パナソニックLB高山（主将） 接戦になれば、勝てないと思っていた。そこでみんなに勝利への執念があった。リードされても、逆転されても「いつも通りやろう」とチームを信じた。ライスボウルの相手、立命大は守備とランプレーのチームでウチと似ているが、ファンダメンタルをしっかりして、全員フットボールで戦う。

◆パナソニックQB高田（MVPをいただいたが）最後の方しか何もできなくて、みんなで勝ち取った勝利だと思う。昔やったら負けていたが、あきらめない気持ちが強かったから勝てた。ライスボウルは母校とやれるのでうれしいの一言。

◆富士通・藤田智ヘッドコーチ 向こうがよく守った。コービーだけのせいではない。どちらかのミスで一瞬で流れが変わる試合。ウチはゴール前でインターセプトされるという、いらないプレーが失点につながり、残念だった。ゴードンがいない影響はないと言えばウソになるが、だからといって負けた訳じゃない。

◆富士通QBキャメロン（パナソニックは）グッドディフェンス。こちらのオフenseにしっかり対応してきた。

◆富士通DB今井（主将） 自信はあったが、勝負でやられた。力を出し切れたが、ミスも自分たちの実力。また来年、出直しです。

【日刊スポーツ 吉池 彰】